

伝統校の輝きを取り戻し 生徒の進路実現を図りたい! 1学年4クラス規模に適した 手厚い進路指導と学習支援

伝統的なマンモス校が、過疎化も手伝って生徒数激減。危機感を感じた先生方が、体験重視や学力向上による魅力的な進路指導を始めています。

取材・文 / 永井ミカ

課題の整理

背景

- 過疎化や少子化による生徒数の減少
- 学力上位層の市外への流出
- 生徒は真面目だが、もっと学力を向上させたいという積極性に乏しい
- 普通科の中堅校で特色を打ち出しにくい

実践内容

- 地域と連携し体験活動を増やす
- 人間創造コースを新設
- 小テストや課題で英語の学力をアップ
- 外部の力を借りて学力アップ

1学年3クラスにしたくない
生徒数減少を食い止めるには

過疎化、少子化などの影響で生徒数の減少に頭を悩ませている高校は少なくない。さまざまな生徒を受け入れてきた大規模伝統校ならなおさら、その大らかさ故に進学二辺倒の他校と比較され敬遠されることもある。ピーク時には1学年11クラスあったという兵庫県立北条高校も近年クラス数が減り続け、ついには4クラスとなった。3クラスになると小規模校として統廃合の可能性も出てくるため、なんとか踏み留まりたいと、改革に乗り出した。

そして今、学校が活気づき入学者数も安定してきた。改革のポイントとなったのは1学年4クラスという、ほどこよいサイズ感。マンモス校時代と同じやり方を捨て、地元の生徒一人ひとりを、全教員と地域の大人で協力しあって手厚く育成する取り組みを紹介する。

地域の力も借りながら 体験と学力向上に注力

兵庫県加西市の県立北条高校は市内の中学生が当然のように入学してくる、大規模な伝統校であった。「私もこの卒業生。他にも保護者や先生方に・OGが大勢います」と北川真一郎校長。自主自立を重んじる伝統校らしい校風のなかで、生徒を大らかに教育。ピーク時は1学年11クラス、その後も8クラスが長く続いたこともあり、「特別なことをしなくても生徒は入学してきました。しかし、指導のきめ細やかさに欠けていたでしょう。少しずつ進学実績が落ち学力上位層は市外へ流出。過疎化や少子化も手伝って生徒が減り、地元の信頼を失っていったのです」

入学してくるのは、進学も行けるところに行くという、おっとりとした成績中間層の生徒が多くなった。「生徒たちには本当はもっと伸びしろがあるのかも」「このままでは学校の存続が危ぶまれる」：1学年4クラスにまで減ったとき、改革に向けてまず動いたのは前校長だった。

例えば、生徒には体験が必要と、地域に向きボランテアをさせてほしいと依頼。地域と学校がつながることで危機感も共有でき、さまざま

まな協力を得られるようになった。また、朝の小テストを皮切りに英語学習を徹底的にテコ入れ。偏差値が上昇し自信をもつ生徒が増えた。そして2016年、人間創造コースを創設。「体験を重視する」という特色を市内の中学校にアピールし同コースの倍率は1.5倍に。自ら動く前校長の背中を見て、他の先生も動き始めた。

「生徒一人ひとりを手厚く応援する。そして、すべての教育に全教員が関わるということを大切にしています」と小倉裕史教頭。1学年4クラスという規模がそのことを可能にし、結果的に生徒数の減少を逆手にとった形となった。



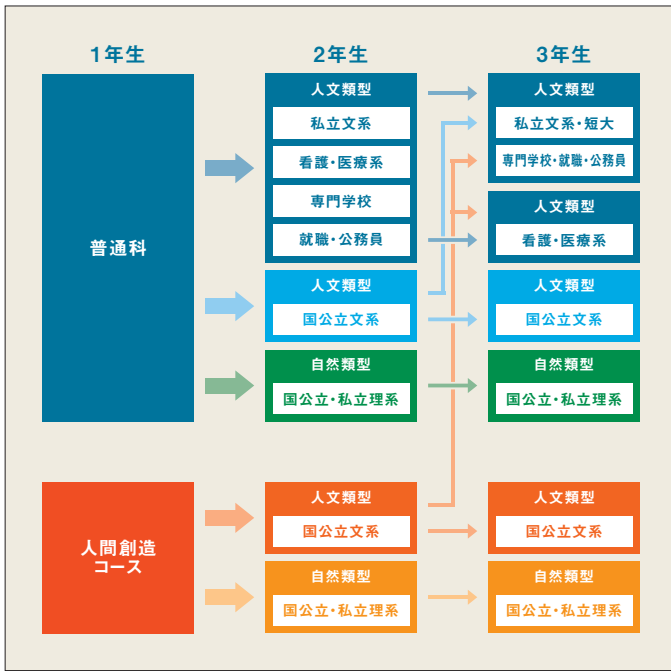
校長 北川真一郎先生(前列左)
教頭 小倉裕史先生(前列右)
進路指導部長 赤沼さとみ先生(後列右)
人間創造コース委員長 衣川顕子先生(後列左)

School Data

1923年創立 / 普通科 / 生徒数474人(男子218人・女子256人) / 進路状況(2017年3月実績) 大学進学96人、短大進学6人、専各進学29人、就職6人、その他10人

ほうじょう
北条高校
(兵庫県立)

図1 コースと類型



職員室の前などで、毎日繰り返しられる個別指導。管理職も含め全教員で学習指導や面接指導を行う。

進路指導

全教員が進路指導に携わり一人ひとりの進路に対応

生徒数減少にもかかわらず、同校の国立・公立大学合格者数は増えている。5クラスだった12年度は合格者数15人、4クラスとなった16年度は21人。なかでも現役合格率が大幅にアップした。

「一人ひとりの進路実現を全教員で応援する」(小倉教頭)というのが進路指導の根本的な考え方で、類型(図1)と選択科目を細かく設定し生徒が進路を考えやすいようにして希望を重視している。「1年度の2学期に類型を選びます。すべての進路希望に対応するため、10人程度で授業

を行う選択授業も。選択後に大学進学→就職、就職→大学進学などの進路変更をした場合も柔軟に対応しています」と進路指導部長の赤沼さとみ先生も言う。

「学年単位の進路説明会では、例えば看護系で国立公立が私立かなど迷ったらすぐに相談に来るようにと言います。そして相談されたら、私自身も職員室で他の先生にすぐ相談して生徒の迷いを共有。数学が入試科目にあることで迷っていたら数学の先生へつなぐ。公務員になりたいという生徒がいればインターンシップができるというところはなかなか相談します」と言うのは人間創造コース委員長の衣川顕子先生。中堅以上の先生が「難しい」「困った」と周

図2 3年間の進路指導計画(主なものを抜粋)

	1学年	2学年	3学年	
			進学希望者	就職希望者
4~6月	進路希望調査①	進路希望調査①	進路希望調査①	就職希望調査
	二者面談①	二者面談①	二者面談①	就職ガイダンス
	大学見学	大学見学		校内就職模試①~⑥
	進路ホームルーム①	進路ホームルーム①	進路ホームルーム①	
7~9月	進路ガイダンス①			企業見学
	三者面談	三者面談	三者面談①	就職講話
	オープンキャンパス参加	オープンキャンパス参加		校内選考会
	進路希望調査②	進路希望調査②	進路希望調査②	
10~12月	二者面談②	二者面談②	二者面談②	各種模試
	文理選択に関する学年集会	進路ホームルーム②	進路ホームルーム②	
	進路ホームルーム②	進路ホームルーム③	三者面談②	
	大学見学(※人間創造コース)	二者面談③	二者面談③	
1~3月	進路ガイダンス②	進路ガイダンス		
	二者面談③			
	進路ホームルーム③④	進路ホームルーム④⑤	進路ホームルーム③	
	進路研究まとめ		三者面談③	
	進路説明会(希望進路別)			

りの先生に助けを求め相談することで、若い先生にも「何でも話し合いながらやっていこう」という雰囲気生まれるという。また、インターンシップは希望者が全員参加だが、内容重視のため時期にはばらつきがある。原則、生徒の希望の場所だ。しかも、病院といっても、理学療法士に興味があれば理学療法士がいる現場で体験する、患者さんと1対1で話をする、生まれたばかりの新生児を抱っこするなど、体験の内容が深い。病院にかがらず地域の

人たちが協力的なのだ。進路目標が決まれば、小論文指導や面接指導は学年問わず全員の先生がかかわる。校長や教頭も例外ではない。「そもそも最初は半ば強制的に小論文や面接指導を先生方全員に割り振っていました。不満を感じていた先生もいるかもしれませんが、でも、指導すれば生徒が伸び、教員にも達成感があります。最近では合格発表も全教員が職員室で待っている状況になり一体感が生まれています」と赤沼先生。

アフタースクールゼミ



上／大手予備校講師による、国公立大学・難関私立大学向け講座。数学と英語各週1回。生徒が支払う受講料は1講座1000円。右／教科書レベルから受験の基礎までの内容を学習する寺子屋式の講座。兵庫教育大学の主に大学院生が講師。数学、英語、理科で各週1回、1講座500円。



学習支援

英語力をパワーアップし
学習塾や大学院生とも連携

前校長が学校改革に乗り出そうとしていたとき、北条高校に赴任してきた衣川先生は英語の小テストの改善を提案した。「できることはなんでもやってみる」という前校長に後押しされ、まずは英語の小テストを月曜から金曜まで毎朝（現在は英語4日、国語等1日）実施することに。そして、それまでの選択式から記述式に切り替えた。10点満点中7点で合格。不

「全員の先生が指導すると、生徒が『先生がみてくれている』という安心感から落ち着いてきます。進路指導においてその効果がとても大きいんです」

図3 主な学校内活動と地域連携活動

	学校内活動	地域連携活動
進路	(図2 参照)	インターンシップ キャリアガイダンス
学習支援	英語POWER UP学習 個別指導「パワーアップサポート」※ 土曜学習サポート 夏期補習、冬期補習、春期補習 受験対策用授業動画配信サービス	「アフタースクールゼミ」 河合塾：受験指導講座 兵庫教育大学：基礎講座
体験活動	探究活動※ 最先端科学技術研修(JAXAほか)※ 国際交流(オーストラリア、タイ)※	小学校絵本読み聞かせ 理科実験教室 野外活動ボランティア 地域ふれあい公開講座

※主に人間創造コース対象



上／人間創造コースによるJAXA見学。右／地域の人や子どもたち向けの講座で講師として活躍する生徒たち。ボランティア活動の一環だが、自主的に継続して関わる生徒も少なくない。



合格なら間違えた箇所を練習して再提出。これを機に同校では英検指導や英作文指導に力を入れ始め、日々の課題も細かく出すようにした。そして、英語の偏差値が全体的にアップ。「英語に強い北条高校」というイメージもつきはじめた。「とにかくクイックレスポンス。小テストも課題も英作文も、すぐにチェックしてすぐに生徒に戻して間違えたところを見直させます。1学年160人ならなんとかさそれが可能です」と衣川先生は言う。ちなみに朝の小テストで満点を10回とると、パワーアップ賞としてPTAから学食の食券が提供される。そして、15年度から新たに始めたのがアフタースクールゼミ。放課後、学習塾講師に

よる受験生向け講座と、大学院生による基礎講座を開き、希望する生徒が有料で受講している。主催は市やPTA、同窓生などで組織している北条高校活性化協議会。学校とは別団体として、ゼミ生の募集、テキストの販売などまで引き受けてくれている。市内唯一の普通科高校を存続させ盛り上げたいと市役所内に事務局を置いた組織で、多方面から北条高校を支援している。そのほか、教育委員会から「ひょうご学力向上サポート事業」の指定を受け、アクティブ・ラーニング授業による学力向上にも教員全員で取り組んでいる。また、土曜日は同校の教員による3年生の希望者への補習も実施するなど学力向上に力を入れている。

今後の展望

AO、新入試を見据えて
体験活動を重視

16年度より募集を開始した「人間創造コース」は探究活動や体験学習に重きを置いたコース。AO・推薦入試の増加や今後の大学入試改革を見据えての設置だ。地域のさまざまな課題をテーマにした探究活動や、最先端研究・技術体験、大学や企業訪問などを行う。本来は生徒全員参加が理想だが、まずはコースの生徒を先行させ、学習によっては普通科の希望者も参加できる仕組みにしている。

体験を重視する考えは学校改革が始まったとき、前校長がもっとも大切にされた部分だ。地域に向かい生徒にボランティアをさせてほしいと依頼。その活動が広がり、現在では1年間に延べ1600人以上の生徒が何らかのボランティアに携わる。

「これまで勉強という物差しでしか生徒を測ってこなかったことは私たちの反省点です。勉強ができる生徒、勉強は苦手だけれどそれ以外にいいところがある生徒、どちらの生徒の進路も大切に考えたい。生徒にはいつも『なぜ国立大学が推薦入試をするのか考えてみて』と話しています。いつも人が出入りし忙しい学校ですが、生徒にとっては、合格不合格以上にたくさんの人と接し指導していただいている過程が大事だったりします。生徒が自分自身の成長に気づける学校でありたいと思います」(赤沼先生)